

柏市民活動ニュースレター

2021年1月発行 第19号

【はじめに】

新年、明けましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの団体の皆さんは計画されていた活動を躊躇せざるを得ない状況に悩まされたかと思います。年末・年始もまだまだ引き続き警戒を怠ることは出来ませんが、今年は是非、収束に向かって欲しいものです。

市民活動サポートコーナーでもコロナ騒ぎの中、一時的に落ち着きだした8月中旬頃より、市民活動団体の一大イベントである市民活動フェスタ&フリーマーケットを11月23日の開催に向けて準備を慎重に進めて参りました。しかしながら、直前の11月20日に至り日本国内、千葉県、柏市内でも感染者を多く出す状況となり、イベントを実施するかしないかの難しい決断を迫られました。不特定多数の方が参加されることが予測されるイベントを実施するからにはどのようにして感染リスクを最小限に出来るかについて、取り寄せられる限りの情報収集を行い、対策案の検討・推進を行って来ましたが、最終的にはやはり11月21日実行委員会と協働推進課、サポートコーナーの話し合いで、参加頂く団体の皆さんと来場くださる市民の方々の安全・安心が第一であると考え、止む得ず中止の運びと致しました。

準備頂いた団体の皆様には大変申し訳なく思っておりますが、何卒ご理解のほど、よろしくお願い致します。

今回のニュースレター19号では12月に開催された市民活動講座及び協働まちづくりサロンの実施報告をお知らせ致します。

また、柏市民公益活動団体登録においての変更点、更に新しく立ち上がる市民団体への支援の仕組みやたまご補助金制度の変更点などもお知らせ致します。

サポートコーナーでは2021年も新しい企画の元、より市民団体と市民団体支援員の協働活動を通して、まちづくりの促進を果たして行きたいと望んでおります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

<目次>

1. はじめに	1
2. 「市民活動講座」：活動を魅せる！ウェブサイトの活用	2
3. 協働まちづくりサロン報告 「市民による災害対応と支援受け入れ」	3
4. 協働推進課からのお知らせ	4
①市民公益団体登録面での個人情報の取扱い変更について	
②柏市民公益活動育成補助金制度（たまご補助金）の改訂について	

11/21
柏市民活動
講座

活動を魅せる！ウェブサイトの活用

講師：柏市市民協働支援員 松清智洋 氏

本講座では、『ウェブサイトの活用』に着目し、共感と賛同を得るためのホームページの作成とSNSの活用について学びました。（開催時間 13:30～16:30、受講者 17名）



ポイント1

メディアと伝える内容を考える

情報を伝える媒体（メディア）として、会報、チラシなど様々なものがある中、ウェブサイトの特徴は、PC やスマホ等が使える人へ向けての発信力は大きいですが、そのぶん団体の概要、活動主旨、活動予定等を、どうやって知ってもらうかが重要。



ポイント2

いろいろなサービスを使い分ける

ウェブサイトのうち、HP・ブログ、SNS、地域情報サイト等のサービスの特徴を十分理解したうえで、有効かつ効果的に伝えるため、サービスを使い分けることが必要。

後半は、いろいろな団体のHPを実際に見て、どうしたらもっと分かりやすくなるか（伝わるか）を受講者みんなで話し合う場を設け、意見交換を行いました。またHPかしわん、ぽっ？を代表とするポータルサイトの使い方、団体で持つHPとの連動方法等を学び、より実践につながる内容となりました。これからの時代、ウェブサイトの活用は情報発信の基本となるでしょう。ウェブサイトで活動を魅せるために、まず自分たちの活動を振り返り、誰に何を発信する・伝えたいかを考える、良い機会にもなりました。

協働まちづくりサロン 「市民による災害対応と支援受け入れ」

協働まちづくりサロンは、柏市の課題を横断的にとらえ、地域の様々な主体がその地域課題を共有し、協働して取り組むための相互理解と意見交換するための場です。

今回の協働まちづくりサロンは、主に大震災や台風直撃等により甚大な被害が柏市地域に発生した場合に、発災直後の救援活動から復旧段階に向けてどのような支援が必要で、その支援を誰がどのようにしていくか、また支援者と地域の連携体制とそこでの役割分担をどう考えていくか、南房総での事例を踏まえて考えました。



まず、昨年の房総半島南部を中心に甚大な被害をもたらした令和元年房総半島台風の復旧支援のために設立された千葉南部災害支援センターの加納氏より、被害状況と、昨年の台風被害では房総半島の被災地各地に全国から非常に多くの災害 NGO が支援活動に入ったこと、地域の被災情報や支援活動の情報が関係者や被災者の間で十分共有されず混乱が生じたこと、破損した住宅の屋根の応急処置等作業に危険が伴い技術を必要とする活動については災害ボランティアセンターでは支援対象外にされていたこと、現在でも復旧支援活動が続いているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により外部からの支援活動がほとんどできなくなったことなどが

紹介されました。また、有限の支援を効果的に災害復旧に活かすために県域での民間主体の災害ボランティアネットワークの必要性について話されました。

加納氏より提起された課題について、今回のサロンには、市民活動団体として全国規模で防災、災害支援活動をしている、(公社)SL 災害ボランティアネットワークの他、柏市内で防災啓発活動を行っている市民公益活動団体や、防災活動に関心のある市民、災害時に災害ボランティアセンターを立ち上げ災害ボランティアの受入と被災者とのマッチングをする柏市社会福祉協議会、そして柏市から防災安全課、地域支援課、そして協働推進課といった参加者により意見交換しました。

柏市に限らず、日本中どこの自治体でも町会・自治会、自主防災組織の高齢化や加入率の低下による地域コミュニティの災害対応力の低下をどのように補っていくか、専門的な技術を必要とする支援をどのように求めていくか、そしてそれを受け入れていくか、課題は多いですが今後も継続的に議論していきたいと思います。またそれぞれの立場では見えない気づきも多くあったようで、今後のそれぞれの取り組みにも反映していければという意見もありました。

柏市民公益活動情報サイト「かしわん、ぽっ？」(HP かしわん、ぽっ?) 上での 個人情報の取り扱いについて

従来、柏市に市民公益活動団体登録をしている団体の情報は、柏市民公益活動促進条例に基づき、また、広く市民の方に知っていただくため公開を原則としていましたが、このたび、個人情報保護の強化を目的として、柏市民公益活動情報サイト「かしわん、ぽっ？」(以下、HP かしわん、ぽっ?) 上での団体情報について、一部を団体の任意により非公開にできるよう、情報公開の規定を変更いたしました。(パレット柏にて据え置いている団体ファイルでは、現行通り、団体活動情報シートとして情報を公開します。)

<規定変更後の運用>

HP かしわん、ぽっ? に掲載している団体情報のうち、

- ①「主たる事務所の所在地」は任意で非公開にすることができる。
 - ②「連絡先(電話番号・メールアドレス)」は任意で非公開にすることができる。
- ただし、市民が直接連絡が取れるよう、どちらか一方は必ず公開にする。

※HP かしわん、ぽっ? の団体情報を変更するには、利用登録にて取得できるIDパスワードで、いつでも情報の変更が行えます。公開・非公開の選択も同様の方法で修正可能です。年1回の団体情報の更新と活動報告の投稿・掲載をお願いいたします。

(問合せ：柏市協働推進課 04-7167-0941 市民活動サポートコーナー 04-7163-1143)

柏市民公益活動育成補助金 (たまご補助金)の主な改正点について

1. 改正後の制度の実施開始は令和4年4月からになります。(令和3年度は移行期間とし、応募資格の条件が異なります。)

2. 応募資格について

(1) 設立から3年未満であること

※令和3年度は設立5年未満の団体が応募可能。

(2) 交付上限回数は2回まで

※令和2年度までに2回目の交付を受けている設立5年未満の団体は、今年度は3回目の応募は可能。

詳細は、柏市協働推進課、市民活動サポートコーナーまでお問い合わせください。

編集後記

年末になるといつも今年の流行語が事前に30語くらいノミネートされ、審査員や投票の結果、流行語大賞が決定されています。ユーキャンでは「三密」が採用されたようです。30位以内には新型コロナ COVID-19 関係の言葉が半分以上だったようですが、その中では「鬼滅の刃」が健闘し、社会現象として大きく取り上げられています。いまや、日本の文化の一つとして世界的に有名になりつつある漫画(コミック誌)はいろいろな分野の理解を容易にする解説書としてもはやされています。また、今年はデジタル化により、大きく経営面で影響を受けている書店の救世主として喜ばれているのは嬉しいことでもあります。しかし一方、コロナ禍でおうち時間が長くなりすぎ、身体の変調をきたさないようにしたいものです。特に、高齢者は身体を動かすフレイル(虚弱体質)の予防に心掛けたいものです。(砂原成治)